

住友不動産がV C支援オフィス、都心で新興困り込み

2023/09/01 19:33 日本経済新聞電子版 538文字

住友不動産はベンチャーキャピタル（V C）大手のグロービス（東京・千代田）などと組み、スタートアップの中でも小規模な企業向けのオフィスを開設する。キャピタリスト（投資担当者）が運営に関与し、1席単位から貸し出す。

住友不動産虎ノ門タワー（東京・港）にスタートアップ専用フロアを設ける。敷金を3カ月分とし一般的なオフィスより短く設定する。創業期など社員数が主に10人以下のスタートアップを対象に、



グロービスが事業内容や資本戦略に関する支援プログラムを提供する。

グロービスが事業内容や資本戦略に関する支援プログラムを提供する。

住友不動産はSBIグループのSBI PEホールディングス（H D）と東京・六本木で、サイバーエージェント・キャピタルとは東京・渋谷で同様のオフィスを設ける。

住友不動産はスタートアップ向けに賃料を下げる代わりに、再開発で中長期的に建て替えを予定する自社ビルのフロアを活用して稼働率を高める。都心のオフィスに入居する大手企業との交流イベントを定期的で開催し、ビジネスチャンスにつなげてもらう。

数十億円以上の資金を調達する一部のスタートアップ企業を除き、「アーリー」「シード」と呼ぶ段階の小規模なスタートアップ企業の多くは「経営者の先輩や同じ課題を持つ仲 の経営者、支援者らと交流する場所を確保できていない」（グロービス）という。

許諾番号30095179 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.